



レイヤ3 マルチキャスト

- [レイヤ3 マルチキャスト \(1 ページ\)](#)
- [レイヤ3 マルチキャストルーティング \(2 ページ\)](#)
- [ランデブー ポイント \(3 ページ\)](#)
- [マルチキャスト フィルタ処理 \(4 ページ\)](#)
- [Layer 3 マルチキャストに関するガイドラインと制限事項 \(5 ページ\)](#)
- [マルチキャスト ルート マップ ポリシーの作成 \(7 ページ\)](#)
- [Any-Source Multicast \(ASM\) マルチキャストの有効化 \(9 ページ\)](#)
- [ソース固有マルチキャスト \(SSM\) の有効化 \(11 ページ\)](#)

レイヤ3 マルチキャスト

Cisco マルチキャスト レイヤ3 マルチキャストは、VRF、ブリッジドメイン (BD)、およびマルチキャスト ソースが存在している任意の EPG という、3 つのレベルで有効または無効にできます。

トップ レベルでは、マルチキャスト ルーティングは、任意のマルチキャストが有効な BD を持つ VRF で有効にする必要があります。マルチキャストが有効な VRF では、マルチキャストが有効な BD と、マルチキャストルーティングが無効な BD の組み合わせにすることができます。Cisco Nexus Dashboard Orchestrator GUI で VRF のマルチキャスト ルーティングを有効にすると、VRF が拡張されている APIC サイトで有効になります。

いったんマルチキャストで VRF を有効にすると、VRF の下の個別の BD では、マルチキャストルーティングを有効にすることができます。BD でレイヤ3 マルチキャストを設定すると、その BD 上では、プロトコル独立ルーティング (PIM) が有効になります。デフォルトでは、PIM はすべての BD で無効になっています。

特定のサイトローカル EPG に属するソースがリモートサイトにマルチキャストトラフィックを送信する場合、Nexus Dashboard Orchestrator はシャドウ EPG を作成し、ソース EPG のリモートサイトで対応するサブネットルートをプログラムする必要があります。リモート Top-of-Rack (TOR) スイッチに適用される設定変更を制限するには、マルチキャスト送信元が存在するローカル EPG でレイヤ3 マルチキャストを明示的に有効にする必要があります。これにより、これらの EPG に必要な設定のみがリモートサイトにプッシュされます。マルチキャストの受信者が存在する EPG では、レイヤ3 マルチキャストを有効にする必要はありません。

マルチサイトは、以下のレイヤ3マルチキャスト送信元と受信者のすべての組み合わせをサポートしています。

- ACI ファブリック内のマルチキャスト送信元と受信者
- ACI ファブリック外のマルチキャスト送信元と受信者
- ACI ファブリック内のマルチキャスト送信元と外部受信者
- ACI ファブリック内のマルチキャスト受信者と外部送信元

レイヤ3マルチキャストルーティング

次に示すのは、サイト間レイヤ3マルチキャストルーティングの高レベルでの概要です。

- マルチキャスト送信元がエンドポイント (EP) として ACI ファブリックに1つのサイトで接続され、マルチキャストフローのストリーミングを開始すると、送信元VRFの指定フォワーダとして選択された特定のサイトのスパインスイッチは、すべてのリモートサイトにマルチキャストトラフィックを転送します。これらのサイトでは、ヘッドエンドレプリケーション (HREP) を使用してソースのVRFがストレッチされます。特定のリモートサイトにその特定のグループのレシーバが存在しない場合、トラフィックは受信スパインノードでドロップされます。少なくとも1つのレシーバがある場合、トラフィックはサイトに転送され、すべてのリーフノードに到達します。ここではVRFが展開されており、その時点でのグループメンバーシップ情報に基づいてプルーニング/転送が行われます。
- Cisco ACI リリース 5.0(1) よりも前では、マルチキャストルーティングソリューションは、外部マルチキャストルータが、PIM-SM エニソースマルチキャスト (ASM) が展開されたランデブーポイント (RP) である必要がありました。それぞれのサイトは、指定された拡張VRFに対し、同じRPアドレスをポイントしている必要があります。RPは、サイトローカルのL3Outを介して、各サイトに到達する必要があります。
- 送信元がファブリックの外側、受信者が内側にある場合、受信者は、RPに対するPIMジョインとしてのサイトローカルのL3Outを介してトラフィックをプルします。送信元は常にサイトローカルのL3Outを介して送信されます。
- 各サイトの受信者には、外部の送信元からのトラフィックを、サイトローカルのL3Outを介して取り込むことが期待されます。そのため、あるサイトのL3Outで受信したトラフィックを他のサイトに送信することはできません。このことは、スパインにおいて、HREPトンネルへ複製中のマルチキャストトラフィックをプルーニングすることによって行われません。

これを可能にするために、外部送信元から発信され、ローカルL3Outで受信されるすべてのマルチキャストトラフィックは、外部VXLANヘッダーの特別なDSCP値で再マーキングされます。スパインはその特定のDSCP値と一致するため、トラフィックがリモートサイトに複製されることはありません。

- サイトに接続された送信元から発信されたトラフィックは、ローカルL3Outまたはリモートサイトに展開されたL3Outを介して外部レシーバに送信できます。これに使用される

特定の L3Out は、外部ネットワークからその特定のマルチキャストグループの PIM Join を受信したサイトにも依存します。

- BD と Nexus Dashboard Orchestrator 上の EPG でマルチキャストが有効にされている場合、BD のすべてのサブネットは、境界リーフ (BL) ノードを含めて、すべてのリーフ スイッチのルーティング テーブルにプログラミングされます。これにより、リーフ スイッチにアタッチされた受信者は、送信側 BD がリーフ スイッチに存在しない場合に、マルチキャスト ソースの到達可能性を判定することができます。BL に対して適切なポリシーが設定されていた場合、サブネットは外部ネットワークにアドバタイズされます。ホストベースのルーティングが BD で設定されている場合、/32 ホストルートがアドバタイズされます。

マルチキャスト ルーティングについての詳細は、[IP マルチキャスト](#)のセクションを参照してください。これは *Cisco APIC* レイヤ3 ネットワーク コンフィギュレーション ガイドに記されています。

ランデブーポイント

マルチキャストトラフィック ソースは、マルチキャストアドレス グループにパケットを送信し、そのグループに参加するすべてのユーザーがパケットを受信できるようにします。1つまたは複数のグループからのトラフィックを受信する受信者は、通常は **Internet Group Management Protocol (IGMP)** を使用して、グループへの参加を要求できます。受信者がグループに参加するたびに、そのグループに対してマルチキャスト配信ツリーが作成されます。ランデブーポイント (RP) は、PIM-SM マルチキャストドメイン内にあるルータで、マルチキャスト共有ツリーの共有ルートとして動作します。

ネットワークに冗長 RP 機能を提供する一般的な方法は、ネットワーク内の2つ以上の RP が同じエニーキャスト IP アドレスを共有できるようにする、エニーキャスト RP と呼ばれる機能を導入することです。これにより、冗長性とロード バランシングが提供されます。1つの RP デバイスに障害が発生した場合、他の RP はサービスを中断せずに引き継ぐことができます。マルチキャストルータは、ネットワーク内のエニーキャスト RP のいずれかに接続して、最も近い RP に転送される join 要求を使用して、マルチキャスト共有ツリーに参加することもできます。

Nexus Dashboard Orchestrator では、次の2種類の RP 設定がサポートされています。

- **静的 RP**—RP が ACI ファブリックの外部にある場合。
- **ファブリック RP** : ACI ファブリック内の境界リーフ スイッチがエニーキャスト RP として機能する場合。

任意の数のルータを RP として機能するように設定できます。また、異なるグループ範囲をカバーするようにそれらを設定できます。ACI ファブリック内部で RP を定義する場合には、グループのリストを含むルートマップ ポリシーを作成し、それを VRF に追加するときこのポリシーを RP にアタッチすることで、RP がカバーするグループを設定できます。ルートマップの作成については [マルチキャスト ルート マップ ポリシーの作成 \(7 ページ\)](#) で説明しており、VRF の設定については [Any-Source Multicast \(ASM\) マルチキャストの有効化 \(9 ページ\)](#) で説明しています。

スタティック RP とファブリック RP の両方で、マルチキャストルーティングが有効になっている VRF に PIM 対応境界リーフスイッチが必要です。L3Out の設定は、L3Out の PIM の有効化を含め、各サイトの APIC から現在ローカルに設定されています。L3Out での PIM の設定の詳細については、[Cisco APIC Layer 3 Networking Configuration Guide](#)を参照してください。

マルチキャストフィルタ処理

マルチキャストフィルタリングは、Cisco APIC リリース 5.0(1) および Nexus Dashboard Orchestrator リリース 3.0(1) 以降で使用可能なマルチキャストトラフィックのデータプレーンフィルタリング機能です。

Cisco APIC は、誰がマルチキャストフィードを受信でき、どのソースから受信できるかを制御するために使用できるコントロールプレーン構成をサポートしています。一部の展開で、データプレーンレベルでマルチキャストストリームの送信および/または受信を制限することが望ましい場合があります。たとえば、LAN 内のマルチキャスト送信者が特定のマルチキャストグループにのみ送信できるようにするか、受信者が特定の送信元からのみマルチキャストを受信できるようにする必要がある場合があります。

Nexus Dashboard Orchestrator からのマルチキャストフィルタリングを構成するには、送信元と宛先のマルチキャストルートマップを作成します。それぞれのマップには、マルチキャストトラフィックの送信元 IP および/またはアクション(許可 (Permit) または拒否 (Deny)) が関連付けられたグループに基づく 1 つ以上のフィルタエントリが含まれています。次に、ルートマップをブリッジドメインにアタッチして、ブリッジドメインでフィルタリングを有効にします。

マルチキャストルートマップを作成すると、1 つ以上のフィルタエントリを定義できます。一部のエントリは許可 (Permit) アクションで設定でき、その他のエントリは拒否 (Deny) アクションで設定できます。すべてが同じルートマップ内で行われます。各エントリに対して、**送信元 IP** と **グループ IP** を提供して、フィルタに一致するトラフィックを定義できます。これらのフィールドの少なくとも 1 つを提供できますが、両方を含むことを選択できます。フィールドの 1 つが空白のままの場合は、すべての値と一致します。

マルチキャスト送信元フィルタリングとマルチキャスト受信先フィルタリングの両方を同じブリッジドメインで有効にできます。この例では、1 つのブリッジドメインが送信元のみならず、受信先の両方に対してフィルタ処理を提供できます。

BD に対してルートマップを提供しない場合、デフォルトアクションはブリッジドメインですべてのマルチキャストトラフィックを許可することです。しかし、ルートマップを選択する場合、デフォルトアクションはルートマップのフィルタエントリに明示的に一致しないトラフィックを拒否するように変更されます。

送信元のフィルタ処理

ブリッジドメインでトラフィックを送信する任意のマルチキャストソースの場合、1 つ以上の送信元とグループ IP フィルタが定義されているルートマップポリシーを設定できます。次に、トラフィックはルートマップのすべてのエントリと照合され、次のいずれかのアクションが実行されます。

- トラフィックがルートマップの許可 (Permit) アクションを持つフィルタ エントリと一致する場合、ブリッジドメインはそのソースからそのグループへのトラフィックを許可します。
- トラフィックがルートマップの拒否 (Deny) アクションを持つフィルタ エントリと一致する場合、ブリッジドメインはそのソースからそのグループへのトラフィックを拒否します。
- トラフィックがルートマップの任意のエントリと一致しない場合、デフォルトの拒否 (Deny) アクションが適用されます。

送信元フィルタは、送信元が接続されている ACI リーフノードで表されるファーストホップルーター (FHR) のブリッジドメインに適用されます。フィルタは、異なるブリッジドメイン内の受信先、同じブリッジドメイン内の受信先、および外部受信先がマルチキャストを受信するのを防ぎます。

宛先(受信先) フィルタ処理

宛先(受信先) フィルタ処理は、受信先がマルチキャスト処理グループに参加することを妨げません。マルチキャストトラフィックは、代わりに、送信元 IP とマルチキャストグループの組み合わせに基づいて、データプレーンで許可またはドロップされます。

送信元フィルタ処理と同様に、マルチキャストトラフィックが宛先フィルタと一致するとき、次のアクションの一つが起こります。

- トラフィックがルートマップの許可 (Permit) アクションを持つフィルタ エントリと一致する場合、ブリッジドメインはその送信元から受信先へのトラフィックを許可します。
- トラフィックがルートマップの拒否 (Deny) アクションを持つフィルタ エントリと一致する場合、ブリッジドメインはその送信元から受信先へのトラフィックを拒否します。
- トラフィックがルートマップの任意のエントリと一致しない場合、デフォルトの拒否 (Deny) アクションが適用されます。

宛先フィルタは、ACI リーフノードが代表する、ラストホップルーター (LHR) 上のブリッジドメインに適用されるため、その他のブリッジドメインはマルチキャストトラフィックを引き続き受信できます。

Layer 3 マルチキャストに関するガイドラインと制限事項

現在のソフトウェアリリースまでは、Cisco Nexus Dashboard Orchestrator を使用して、IGMP または PIM 関連のポリシーなどの特定のマルチキャストコントロールプレーンフィルタリングポリシーを各サイトに展開することはできません。したがって、エンドツーエンドソリューションが機能するためには、各 APIC サイトでの使用例に必要な追加ポリシーを個別に設定する必要があります。各サイトでこれらの設定を構成する方法の詳細については、『[CISCO APIC Layer 3 Network Configuration Guide](#)』を参照してください。

また、すべてのファブリックのQoS DSCP変換ポリシーが一貫して設定されていることを確認する必要があります。ACIファブリックでカスタムQoSポリシーを作成する場合、ACIQoSレベルと、ファブリックに出入りするパケットのパケットヘッダーDSCP値との間のマッピングを作成できます。マルチキャストトラフィックがサイト間を通過するには、すべてのサイトで同じACIQoSレベルを同じDSCP値にマッピングする必要があります。各サイトでこれらの設定を構成する方法の詳細については、[CISCO APIC and QoS](#)を参照してください。

マルチキャストフィルタ処理

マルチキャストフィルタ処理を有効にすると、次の追加のガイドラインが適用されます。

- マルチキャストフィルタ処理は、IPv4でのみサポートされています。
- 同じブリッジドメインで、マルチキャスト送信元フィルタ処理または受信者フィルタ処理のいずれかまたは両方を有効にできます。
- ブリッジドメインにマルチキャストフィルタを設定しない場合は、そのブリッジドメインで送信元フィルタまたは宛先フィルタルートマップを設定しないでください。

デフォルトでは、ルートマップはブリッジドメインに関連付けられていません。これは、すべてのマルチキャストトラフィックが許可されることを意味します。ルートマップがブリッジドメインに関連付けられている場合、そのルートマップ内の **permit** エントリだけが許可され、その他のすべてのマルチキャストトラフィックはブロックされます。

空のルートマップをブリッジドメインに接続すると、ルートマップはデフォルトで **deny all** を想定するため、すべての送信元とグループがそのブリッジドメインでブロックされます。

- マルチキャストフィルタリングはBDレベルで実行され、BD内のすべてのEPGに適用されます。そのため、同じBD内の異なるEPGに対して異なるフィルタリングポリシーを設定することはできません。EPGレベルでより詳細にフィルタリングを適用する必要がある場合は、EPGを個別のBDに設定する必要があります。
- マルチキャストフィルタ処理は、任意の送信元マルチキャスト (ASM) 範囲にのみ使用することを目的としています。Source-Specific Multicast (SSM) は送信元フィルタリングではサポートされず、受信者フィルタリングでのみサポートされます。
- 送信側と受信側両方のフィルタ処理の場合、ルートマップエントリはエントリの指定された順序に基づいて照合され、最も小さい番号が最初に一致します。これは、より低い順序のエントリが、リスト内で最長一致でない場合でも、最初に一致することを意味し、より高い順序のエントリは考慮されません。

たとえば、192.0.3.1/32ソースに対して次のルートマップがあるとします。

順位	送信元 IP	アクション
1	192.0.0.0/16	Permit
2	192.0.3.0/24	拒否

2番目のエントリ (192.0.3.0/24) が送信元 IP と一致する場合でも、最初のエントリ (192.0.0.0/16) は、下位の番号が原因で照合されます。

マルチキャストルートマップポリシーの作成

このセクションでは、マルチキャストルートマップポリシーを作成する方法について説明します。ルートマップを作成する理由としては、次のものが考えられます。

- マルチキャスト ソース フィルタリングのためにフィルタのセットを定義する。
- マルチキャスト デスティネーション フィルタリングのためにフィルタのセットを定義する。
- ランデブー ポイント (RP) のためのグループ IP のセットを定義する。

VRF 用の RP を設定する場合、ルートマップを指定しなければ、RP はその VRF のすべてのマルチキャストグループ範囲 (224.0.0.0/4) に合わせて定義されます。または、定義済みのグループまたはグループ範囲を持つルートマップを指定して、RP をそのグループのみに制限することができます。

ステップ 1 Nexus Dashboard にログインし、Nexus Dashboard Orchestrator サービスを開きます。

ステップ 2 新しいテナントポリシーを作成。

- a) 左側のナビゲーションメニューで、[アプリケーション管理 (Application Management)] > [テナントポリシー (Tenant Policies)] を選択します。
- b) [テナントポリシーテンプレート (Tenant Policy Template)] ページ内で [テナントポリシーテンプレートを追加 (Add Tenant Policy Template)] をクリックします。
- c) テナントポリシー ページの右のプロパティ サイトバーにテナントの [名前 (Name)] を入力します。
- d) [テナントの選択 (Select a Tenant)] ドロップダウンから、このテンプレートに関連付けるテナントを選択します。

次の手順で説明するようにテンプレートで作成したすべてのポリシーは、テンプレートを特定のサイトにプッシュすると、展開された選択したテナントに関連付けられます。

デフォルトでは、新しいテンプレートは空であるため、次のステップに従って1つ以上のテナントポリシーを追加する必要があります。テンプレートで使用可能なすべてのポリシーを作成する必要はないことに注意してください。マルチキャストのユースケースに対して1つのルートマップポリシーだけでテンプレートを作成できます。

ステップ 3 マルチキャストのルートマップポリシーの作成

- a) [+オブジェクトの作成 (+Create Object)] ドロップダウンから、[マルチキャストのルートマップポリシー (Route Map Policy for Multicast)] を選択します。
- b) 右のプロパティのサイドバーでは、ポリシーの [名前 (Name)] を指定します。
- c) (オプション) [説明を追加 (Add Description)] をクリックして、このポリシーの説明を入力します。

- d) **[+ マルチキャスト エントリのルートマップを追加 (+Add Route Map for Multicast Entries)]** をクリックし、ルートマップ情報を指定します。

ルートマップごとに、1つ以上のルートマップエントリを作成する必要があります。次の情報によると各コンテキストは、1つ以上の一致基準に基づいてアクションを定義するルールです：

- **順序** – 順序は、ルールを評価する順序を決定するために用いられます。
- **グループ IP、Src IP と RP IP** – 同じマルチキャスト ルート マップのポリシー UI は 2 つの方法で使用できます。マルチキャスト トラフィックのフィルタのセットを設定すること、またはランデブーポイントの構成をマルチキャストグループの特定のセットに制限することです。設定する使用例によっては、この画面のフィールドの一部だけを指定すればよい場合もあります。

- マルチキャスト フィルタリングの場合には、フィルタを定義するために、**[ソース IP (Source IP)]** と **[グループ (Group IP)]** フィールドを使用します。これらのフィールドの少なくとも 1 つを提供できますが、両方を含むことを選択できます。フィールドの 1 つが空白のままの場合は、すべての値と一致します。

グループ IP の範囲は 224.0.0.0 ~ 239.255.255.255 で、ネットマスクは /4 ~ /32 である必要があります。サブネットマスクを指定する必要があります。

RP IP (ランデブーポイントの IP) は、マルチキャスト フィルタリング ルート マップでは使用しないので、このフィールドはブランクのままにします。

- ランデブーポイントの設定では、**[グループ IP (Group IP)]** フィールドを使用して RP のマルチキャストグループを定義できます。

グループ IP の範囲は 224.0.0.0 ~ 239.255.255.255 で、ネットマスクは /4 ~ /32 である必要があります。サブネットマスクを指定する必要があります。

ランデブーポイント設定の場合、**RP IP** は RP 設定の一部として設定されます。ルートマップをグループ フィルタリングに使用する場合は、ルートマップに **RP IP** アドレスを設定する必要はありません。この場合には、**[RP IP]** と **[ソース IP (Source IP)]** フィールドを空白のままにします。

- **アクション** – アクションは、一致が検出された場合に実行するアクションの許可または拒否を定義します。

- e) チェックマーク アイコンをクリックして、エントリを保存します。
- f) 前のサブステップを繰り返して、同じポリシーの追加のルートマップエントリを作成します。
- g) **[保存 (Save)]** をクリックしてポリシーを保存し、テンプレートページに戻ります。
- h) この手順を繰り返して、マルチキャストポリシーの追加のルートマップを作成します。

Any-Source Multicast (ASM) マルチキャストの有効化

以下の手順では、Nexus Dashboard Orchestrator GUI を使用して、VRF、BD、および EPG で ASM マルチキャストを有効にする方法を説明しています。SSM マルチキャストを有効にする場合は、代わりに [ソース固有マルチキャスト \(SSM\) の有効化 \(11 ページ\)](#) の手順に従います。

始める前に

- [Layer 3 マルチキャストに関するガイドラインと制限事項 \(5 ページ\)](#) で説明されている情報を読んで、従っていることを確認してください。
- マルチキャストのフィルタリングを有効にする予定の場合には、[マルチキャストルートマップポリシーの作成 \(7 ページ\)](#) で説明されているように、必要なマルチキャストルートマップを作成します。
- ファブリック RP が有効になっている場合、VRF でサイトローカル L3Out の PIM を有効にする必要があります。

これについては、次の手順のステップ 6 で説明します。L3Out 上での PIM の設定の詳細については、[Cisco APIC レイヤ 3 ネットワーク コンフィギュレーション ガイド](#) を参照してください。

ステップ 1 Cisco Nexus Dashboard Orchestrator の GUI にログインします。

ステップ 2 左側のサイドバーから、[アプリケーション管理 (Application Management)] > [スキーマ (Schemas)] ビューを選択します。

ステップ 3 変更するスキーマをクリックします。

ステップ 4 VRD でレイヤ 3 マルチキャストを有効にします。

まず、サイト間で拡張されている VRF でレイヤ 3 マルチキャストを有効にします。

- a) レイヤ 3 マルチキャストを有効にする VRF を選択します。
- b) 右のプロパティサイドバーで、[L3 マルチキャスト (L3 Multicast)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 1 つ以上のランデブーポイント (RP) を追加します。

- a) VRF を選択します。
- b) 右のプロパティサイドバーで、[ランデブーポイントの追加 (Add Rendezvous Points)] をクリックします。
- c) VRF を選択したまま、右のサイドバーで [ランデブーポイントの追加 (Add Rendezvous Points)] をクリックします。
- d) [ランデブーポイントの追加 (Add Rendezvous Points)] ウィンドウで、RP の IP アドレスを入力します。
- e) RP のタイプを選択します。

- 静的 RP—RP が ACI ファブリックの外部にある場合。
- ファブリック RP—RP が ACI ファブリック内にある場合。

- f) (オプション) **[マルチキャスト ルートマップ ポリシー (Multicast Route-Map Policy)]** ドロップダウンから、以前に設定したルートマップ ポリシーを選択します。

デフォルトでは、入力した RP IP は、ファブリックのすべてのマルチキャスト グループに適用されます。RP を、特定のマルチキャスト グループのセットに制限する場合は、ルート マップ ポリシーでそれらのグループを定義し、ここでそのポリシーを選択します。

ステップ6 L3Out で PIM を有効にします。

スタティック RP とファブリック RP の両方で、マルチキャストルーティングが有効になっている PIM 対応ボーダー リーフ スイッチが必要です。現在、L3Out 設定は Nexus Dashboard Orchestrator から実行できないため、サイトの APIC で PIM が有効になっていることを直接確認する必要があります。L3Out 上での PIM の設定の詳細については、[Cisco APIC レイヤ3 ネットワーク コンフィギュレーションガイド](#)を参照してください。

- サイトの Cisco APIC にログインします。
- 上部のメニューで **[テナント (Tenants)]** をクリックし、L3Out を含むテナントを選択します。
- 左側のナビゲーションメニューで、**[ネットワーク (Networking)] > [L3Outs] > <l3out-name>** を選択します。
- メイン ペインで、**[ポリシー (Policy)]** タブを選択します。
- [PIM]** オプションを確認します。
Multi-Site は IPv4 マルチキャストのみをサポートします。

ステップ7 BD でレイヤ3 マルチキャストを有効にします。

いったん VRF で L3 マルチキャストを有効にすると、L3 マルチキャストをブリッジ ドメイン (BD) レベルで有効にすることができます。

- レイヤ3 マルチキャストを有効にする BD を選択します。
- 右のプロパティ サイドバーで、**[L3 マルチキャスト (L3 Multicast)]** チェックボックスをオンにします。

ステップ8 (オプション) マルチキャスト フィルタ処理を設定する場合は、送信元と接続先のフィルタ処理のためのルートマップを指定します。

- BD を選択します。
- 右のプロパティ サイドバーで、**[ルートマップの送信元フィルタ (Route-Map Source Filter)]** と **[ルートマップの接続先フィルタ (Route-Map Destination Filter)]** を選択します。

同じブリッジ ドメインで、マルチキャスト送信元フィルタ処理または受信者フィルタ処理のいずれかまたは両方を有効にできます。

ルートマップを選択しなかった場合、デフォルトの動作は、「ブリッジドメインですべてのマルチトラフィックを許可する」になります。一方、ルートマップを選択すると、デフォルトの動作は、「ルートマップのフィルタ エントリに明示的にマッチしないすべてのトラフィックを拒否」に変わることにご注意してください。

ステップ9 マルチキャスト ソースが1つのサイトにあり、他のサイトに拡張されていない場合は、EPG でサイト間マルチキャスト ソース オプションを有効にします。

BD で L3 マルチキャストを有効にしたら、マルチキャスト ソースが接続されている EPG (マルチキャスト 対応 BD の一部) でもマルチキャストを有効にする必要があります。

- a) レイヤ3 マルチキャストを有効にする EPG を選択します。
- b) 右のサイドバーで、[サイト間マルチキャスト送信元 (Intersite Multicast Source)] チェックボックスをオンにします。

ソース固有マルチキャスト (SSM) の有効化

以下の手順では、Nexus Dashboard Orchestrator GUI を使用して、VRF、BD、および EPG で SSM マルチキャストを有効にする方法を説明しています。ASM マルチキャストを有効にする場合は、代わりに [Any-Source Multicast \(ASM\) マルチキャストの有効化 \(9 ページ\)](#) の手順に従います。

始める前に

- [Layer 3 マルチキャストに関するガイドラインと制限事項 \(5 ページ\)](#) で説明されている情報を読んで、従っていることを確認してください。
- マルチキャストのフィルタリングを有効にする予定の場合には、[マルチキャストルートマップポリシーの作成 \(7 ページ\)](#) で説明されているように、必要なマルチキャストルートマップを作成します。
- サイトローカルレベルでマルチキャスト対応 BD の IGMPv3 インターフェイスポリシーを設定する必要があることに注意してください。
これについては、次の手順のステップ 8 で説明します。追加情報については、[Cisco APIC レイヤ3 ネットワーク コンフィギュレーションガイド](#) を参照してください。

ステップ 1 Cisco Nexus Dashboard Orchestrator の GUI にログインします。

ステップ 2 左側のサイドバーから、[アプリケーション管理 (Application Management)] > [スキーマ (Schemas)] ビューを選択します。

ステップ 3 変更するスキーマをクリックします。

ステップ 4 VRD でレイヤ3 マルチキャストを有効にします。

まず、サイト間で拡張されている VRF でレイヤ3 マルチキャストを有効にします。

- a) レイヤ3 マルチキャストを有効にする VRF を選択します。
- b) 右のプロパティ サイドバーで、[L3 マルチキャスト (L3 Multicast)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 (任意) SSM リスナーのカスタム範囲を設定します。

デフォルトの SSM 範囲は 232.0.0.0/8 で、ファブリック内のスイッチで自動的に設定されます。SSM を使用している場合は、この範囲のグループに参加するようにリスナーを設定することを推奨します。この場合は、この手順をスキップできます。

何らかの理由でリスナー設定を変更しない場合は、最大4つの範囲を含むルートマップを作成して、VRF設定でSSM範囲を追加できます。新しい範囲を追加すると、その範囲がSSM範囲になり、ASMに同時に使用できないことに注意してください。

カスタムSSM範囲の設定は、サイトのAPICで直接行う必要があります。

- a) サイトのCisco APICにログインします。
- b) 上部のメニューで[テナント (Tenants)]をクリックし、VRFを含むテナントを選択します。
- c) 左側のナビゲーションメニューで、[ネットワークング (Networking)] > [VRFs] > <VRF-name> > [マルチキャスト (Multicast)]を選択します。
- d) メインペインで、[パターンポリシー (Pattern Policy)]タブを選択します。
- e) [ルートマップ (Route Map)]ドロップダウン([ソース固有のマルチキャスト (Source Specific Multicast (SSM))]領域)から、既存のルートマップを選択するか、[マルチキャストのためのルートマップポリシーの作成 (Create Route Map Policy for Multicast)]オプションをクリックして、新しいルートマップポリシーを作成します。

既存のルートマップを選択した場合は、ドロップダウンの横にあるアイコンをクリックして、ルートマップの詳細を表示します。

開いたルートマップの詳細ウィンドウまたは[マルチキャストのためのルートマップポリシーの作成 (Create Route Map Policy for Multicast)]ウィンドウで[+]をクリックしてエントリを追加します。次に、グループIPを設定します。新しい範囲を定義するのに必要なのは、グループIPアドレスだけです。

ステップ6 (任意) サイトのL3OutでPIMを有効にします。

マルチキャストの送信元や受信者を外部ネットワークドメインに接続する場合は、サイトのL3OutでもPIMを有効にする必要があります。現在、L3Out設定はNexus Dashboard Orchestratorから実行できないため、サイトのAPICでPIMが有効になっていることを直接確認する必要があります。L3Out上でのPIMの設定の詳細については、[Cisco APIC レイヤ3 ネットワーク コンフィギュレーション ガイド](#)を参照してください。

- a) サイトのCisco APICにログインします。
- b) 上部のメニューで[テナント (Tenants)]をクリックし、L3Outを含むテナントを選択します。
- c) 左側のナビゲーションメニューで、[ネットワークング (Networking)] > [L3Outs] > <l3out-name> を選択します。
- d) メインペインで、[ポリシー (Policy)]タブを選択します。
- e) [PIM]オプションを確認します。
Multi-SiteはIPv4マルチキャストのみをサポートします。

ステップ7 BDでレイヤ3マルチキャストを有効にします。

いったんVRFでL3マルチキャストを有効にすると、L3マルチキャストをブリッジドメイン(BD)レベルで有効にすることができます。

- a) レイヤ3マルチキャストを有効にするBDを選択します。
- b) 右のプロパティサイドバーで、[L3マルチキャスト (L3 Multicast)]チェックボックスをオンにします。

ステップ 8 レシーバが接続されているブリッジ ドメインで IGMPv3 インターフェイス ポリシーを有効にします。

SSM を設定しているため、IGMPv3 インターフェイス ポリシーも BD に割り当てる必要があります。デフォルトでは、PIM がイネーブルの場合、IGMP も SVI で自動的にイネーブルになりますが、デフォルトバージョンは IGMPv2 に設定されます。IGMP インターフェイス ポリシーを明示的に IGMPv3 に設定する必要があります。これは、サイトローカル レベルで実行する必要があります。

- a) サイトの Cisco APIC にログインします。
- b) 上部のメニューで **[テナント (Tenants)]** をクリックし、BD を含むテナントを選択します。
- c) 左側のナビゲーションメニューで、**[ネットワーキング (Networking)] > [ブリッジ ドメイン (Bridge Domains)] > <BD-name>** を選択します。
- d) メイン ペインで、**[ポリシー (Policy)]** タブを選択します。
- e) **[IGMP ポリシー (IGMP Policy)]** ドロップダウンから IGMP ポリシーを選択するか、**[IGMP インターフェイス ポリシーの作成 (Create IGMP Interface Policy)]** をクリックして新しいポリシーを作成します。

既存のポリシーを選択した場合は、ドロップダウンの横にあるアイコンをクリックして、ポリシーの詳細を表示します。

開いているポリシーの詳細ウィンドウまたは**[マルチキャストのためのルートポリシーの作成 (Create Route Map Policy for Multicast)]** ウィンドウで、**[バージョン (Version)]** フィールドが **[バージョン 3 (Version 3)]** に設定されていることを確認します。

ステップ 9 (オプション) マルチキャスト フィルタ処理を設定する場合は、送信元と接続先のフィルタ処理のためのルートマップを指定します。

- a) BD を選択します。
- b) 右のプロパティ サイドバーで、**[ルートマップの送信元フィルタ (Route-Map Source Filter)]** と **[ルートマップの接続先フィルタ (Route-Map Destination Filter)]** を選択します。

同じブリッジ ドメインで、マルチキャスト送信元フィルタ処理または受信者フィルタ処理のいずれかまたは両方を有効にできます。

ルートマップを選択しなかった場合、デフォルトの動作は、「ブリッジ ドメインですべてのマルチトラフィックを許可する」になります。一方、ルートマップを選択すると、デフォルトの動作は、「ルートマップのフィルタ エントリに明示的にマッチしないすべてのトラフィックを拒否」に変わることにご注意してください。

ステップ 10 マルチキャスト ソースが 1 つのサイトにあり、他のサイトに拡張されていない場合は、EPG でサイト間マルチキャスト ソース オプションを有効にします。

BD で L3 マルチキャストを有効にしたら、マルチキャスト ソースが接続されている EPG (マルチキャスト対応 BD の一部) でもマルチキャストを有効にする必要があります。

- a) レイヤ 3 マルチキャストを有効にする EPG を選択します。
- b) 右のサイドバーで、**[サイト間マルチキャスト送信元 (Intersite Multicast Source)]** チェックボックスをオンにします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。